

## 平成30年度新居浜市地方創生有識者会議発言要旨

日時：平成30年7月31日（火）19：00～20：40

場所：新居浜市役所3階応接会議室

事務局：（「新居浜市総合戦略の進捗状況について」資料1に基づき説明）

東淵座長：事務局からの説明を踏まえ、個別事業についての質問や事業提案等について、皆さんの意見を伺いたい。

事務局：住友グループ企業等の好況が伝えられているが、新居浜市の経済界、産業全般はどういう状況なのか意見を伺いたい。

藤田委員：住友化学のメチオニン増強やLNGなどもあり、決算の状況もよい。ものづくり関係の中小企業も住友、新居浜だけに依存せず、様々な仕事を受注している企業も多く、概ね好況と認識している。生産体制の増強や効率化のための設備導入に関する融資案件も増えてきている。ただ、人手不足の問題は深刻であり、どの業種も苦勞している。南予地域や海外（ベトナム・ハノイ）などに労働力を求める企業もある。

東淵座長：不足している人材は現場の人材、熟練工が多いのか。

藤田委員：そう認識している。

伊藤委員：住友金属鉱山に勤務している。企業の業績が従業員の賃金にまで反映されているかどうかはひとつの目安と考えるが、そういう点ではすべての地元協力企業にまでは、まだ好況の影響が及んではないとみている。住友金属鉱山においても地元で正規職員を募集しているが、思うように応募がない状況である。

東淵座長：若い人が安心して働ける職場にするためには、経営者の技量が求められる。地元の中小企業の従業員の方は「やりがい」を感じて働いているか。

橋本委員：小規模事業者のお手伝いをすることが多い。小規模事業者はエンドユーザーにより近い商売をしている。介護関係や飲食関係の創業者に多いのは、事業を開始したものの従業員を確保できないということが往々にしてある。介護関連の仕事は新しい3Kとも言われており、人材不足が顕著である。一方で、住友化学のメチオニン増強工事等の影響で、市内のホテルは慢性的な満室状態で、今治に宿を確保して、新居浜で仕事をするという方も多いと聞く。

東淵座長：総合戦略の基本目標1「ものづくり産業の振興③中小企業の経営体質の強化と企業価値の向上」では具体的にどのような事業をしているのか。

事務局：自社製品・部品の品質管理の効率化やコスト削減、利益率向上に取り組む中小企業者に対し、専門家を派遣・指導するような事業を行っている。

東淵座長：市内には受注価格勝負の企業が多いのか、それとも技術力で勝負する企業が多

いのか。

藤田委員：市内には飛行機の部品を作っている企業もあり、総じていえば、技術力で勝負する企業が多いと認識している。

事務局：新居浜市でも数年前より、市内の企業で技術力の高い企業、自社製品をもった企業などを「ものづくりブランド」企業として認定している。徐々に認定企業も増えてきている。さきほどの会社のやりがいについても、なかなか外部の人には伝わりにくい部分でもあるので、そこをきちんと伝えようと、ブランド認定された企業の現場、商品等を撮影し、会社の魅力をテレビで紹介・発信するような事業にも取り組んでいる。

東淵座長：新居浜市の観光はどういう状況であるか。

事務局：ホテル業界の人の声としては、いい観光素材はあるが、それが点在しているため、一体の魅力となっていないとの意見もある。市としては、そういった問題も踏まえ、昨年観光振興計画を策定し、観光振興に取り組んでいくこととしている。

橋本委員：新居浜南高校のユネスコ部の活躍をよく聞く。

事務局：今年度から転入者を対象としたウェルカムツアーを実施しているが、ユネスコ部にガイド役を務めていただいている。今後も様々な場面で高校生のパワーをまちづくりに活用させてもらいたい。

東淵座長：新居浜の観光での問題点は何か。

事務局：新居浜市の観光資源は何といっても太鼓祭りや別子銅山産業遺産。太鼓祭りは年に3日間のみであるため、別子銅山産業遺産を活かしていくしかない。ただ、マイントピア（端出場）や東平のマチュピチュ、広瀬歴史記念館などが点在しており、全体像としての歴史のすごさが十分に伝わっていない。他にも、水力発電所跡や山田社宅跡などの素材も活かし、点を線にしていく観光戦略が必要であると認識している。

東淵座長：マイントピアの客層は。どういったエリアから来ているのか。

事務局：主にシニア層が多く、中国四国地区からの観光客が多い。今年秋には、新居浜を舞台にした映画が公開され、来年度には東予東部博が開催される。こうしたイベントと合わせた観光振興策も考えていきたい。

藤田委員：例えば、シニア層をターゲットとして考えると、サイクリングコースの充実や映画公開とあわせたツアープランの作成などを検討してはどうか。映画や東予博で新居浜に注目が集まる好機を逃さず、相乗効果をねらい、撮影地を周遊していただくツアーを考えれば面白いのではないか。

東淵座長：最近、徳島県西部や香川県は外国人に人気の観光地になっている。ターゲットとして外国人観光客も考えられる。

藤田委員：伊予銀行には東京から九州まで多くの支店がある。例えばそれらの支店に、映

画のチラシを置いて、全国でのPRに協力するという事は可能。

事務局：今年1月に東京ドームで開催された全国の祭りを紹介する大規模なイベントに新居浜の太鼓台が出演し、多くの方から賞賛いただいた。来年も同じイベントに2台の太鼓台が参加する。そうしたイベントと連動した首都圏での映画のPRも考えていきたい。ぜひご協力いただきたい。

藤田委員：先日、銅山越えの登山に参加した。初心者向けのコースであり、ガイドを受けながらの登山はよい経験となった。山岳観光も魅力的な観光コンテンツと考える。

事務局：以前、中村知事の方から住友金属鉱山に対し、東平地域も観光商品とすべく活用させてもらえないか打診したことがあったが、前向きな回答は得られなかった。

事務局：（「新居浜市総合戦略の進捗状況について」資料2に基づき説明）

東淵座長：事務局からの説明を踏まえ、数値目標の推移についてのご質問、目標値、KPIの上方修正に関する意見、目標達成に向けた新規事業提案等について、皆さんの意見を伺いたい。

東淵座長：基本目標1の「市が関与した事業承継件数」は0件であるが、事務局の見解は。

事務局：事業承継は、経営者を含む関係者の財産に関する手続き等が伴うことから、現状では、法的知識を備えた専門家や金融機関などが支援を図りながら、承継処理が進められるケースが大多数で、市が直接関与し支援する機会がこれまでなかったため成果が表れていない。設定項目が適当でなかったと考えている。

藤田委員：銀行ではビジネスマッチングやM&Aなどにも注力しており、事務局がいわゆるように、事業承継のサポートは主に金融機関等が強みを発揮する部分であるとする。

東淵座長：基本目標2の数値目標「年間社会増減数」は年々減少幅が縮小し、改善傾向にあるが、事務局としてその要因をどのように分析しているか。

事務局：様々な要因が複合的に作用した結果であり、主要因と特定できるものではないが、数年前まで大幅な転出超過であった松山市、西条市のマイナス幅が大幅に改善している点、転入者アンケートの結果、20代、30代が就職、転職、起業等の理由で多く転入している点などを踏まえると、働き手世代が、働く場所があり、子育てや生活をしやすい本市を評価し、本市に居住する人が増えてきているのではと推測している。

東淵座長：基本目標3のKPI「マイントピア別子入込客数」について、昨年度は少し減少したようだが、そのあたりの要因は？

事務局：27年度に改修工事を行い、風呂をリニューアルし、子ども用屋内遊戯施設、

あかがねキッズパークを新設した。リニューアルオープンの効果があり、28年度はぐっと利用者が伸びたが、29年度はある程度利用者も落ち着いてきている。

伊藤委員：こういう施設の入場者数を高水準で維持していくためには、少しずつ新しいものを提供できないと、利用者はまた来ようという気にならない。リピーターにはなってくれない。例えば、あかがねミュージアムとマイントピア別子のコレボレーションツアーなどを検討してはどうか。何となく、それぞれの施設が個別に動いているイメージがある。

東淵座長：マイントピア別子のような複合施設はターゲット設定が難しい。どのターゲットに来てもらいたいのか明確にすることも必要では。

事務局：ご指摘の通りと考える。まずは、入場者アンケート調査による利用者分析から始めたい。29年度の入場者数が落ちたのは、あかがねキッズパークの入場者である。関係者と話したところ、要因としては、PR不足や、スタッフのホスピタリティの問題、リピーターになったもらうための目新しさの提供ができていない点、などが挙げられている。対応策を検討していきたい。

東淵座長：先日、いよぎん地域経済研究センターより、愛媛県内の合計特殊出生率の速報値が発表されていたが、事務局の見解は。

事務局：発表については把握している。いよぎん地域経済研究センターによる独自推計値であるため、参考値として記載している。現在、市が総合戦略の目標値として設定している合計特殊出生率は、厚生労働省の公表数値であり、次期の発表を待っている状況である。

東淵座長：がん検診の数値が伸びていないが、どう考えるか。

事務局：平成28年度より無料化を実施し、受診を呼びかけているが、受診率が伸びていない。この水準は県内でも低い水準であり、さらなる対応策を考えないといけない。

伊藤委員：がん検診を受診しない人の心理としては、そもそも自分は大丈夫と思う人が多いのか、健診制度を知らない人が多いのか、そのあたりの分析から始めるべきでは。

東淵座長：基本目標4の数値目標「新居浜市の住みごころ」を満足、やや満足と回答した人の割合については、いつごろ直近値がでるのか。

事務局：今年、市民アンケート調査を実施することとしており、総合戦略において実施している様々な施策の総合的な成果を検証する指標と考えている。目標値は非常に高い水準で設定している。

東淵座長：「自主防災訓練参加者数」が28年度、29年度と減少しているが、要因は何か。

事務局：訓練は小学校の校区単位で実施しているが、28、29年度は、雨天によりやむなく中止となった校区があり、参加者数が減少してしまった。

東渕座長：その他、議題以外のことでも構わないので、何か意見はありますか。

事務局：議題の中でも、紹介しましたが、今年秋には、新居浜が舞台の映画が全国公開され、来年には、新居浜、西条、四国中央の東予東部地域において、振興イベント「えひめさんさん物語」が開催される。この圏域を注目してもらい、訪れてもらう大きなチャンスである。様々なイベントが開催されることになるが、広報や周知も含め、委員の皆さんにも協力をお願いする場面が出てくると思われる。その際は協力をお願いしたい。

伊藤委員：青年会議所の方にも、イベント開催等の打診がきている。協力できるところは一緒にやっていきたい。

曾根委員：事務局作成の資料が非常に分かりやすかった。行政が実施している様々な事業を知ることができ、有意義な会議であった。

東渕座長：事務局には、この会議で発言のあった各種事業に対する意見等については、事業担当課にも伝えていただき、必要な検討を行っていただきたい。よろしくお願ひします。

事務局：委員の皆様のご意見を踏まえ、今後も総合戦略の取組を着実に推進していきたい。本会議は、年1回の開催を基本とするが、必要に応じて臨時開催させていただきたい。地方創生に関する情報は、随時提供させていただく。

東渕座長：それでは、以上で会議を終了したい。本日は、熱心にご議論いただき、ありがとうございました。